

# 教団新報

定価 1部144円(本体133円+共26円)  
予約購読料 1年分 千円 5,150円  
紙代のみ 3,600円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含ます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546  
FAX03(3207)3918  
URL http://uccj.org  
発行人 秋山 徹  
編集主筆 渡邊 義彦  
印刷所 株式会社きかんし

## 北海・奥羽・東北三教区 保養プログラム

### 「あなたがたに味方がいます」と伝えるために

8月2〜7日「心と体をリラックス第12回親子短期保養プログラムin北海道」を札幌で行った。北海道を札幌で行った。東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能汚染の影響を逃れ、6家族21名(子ども12名)と引率者2名が北海道クリスチャンセンターに滞在。北海教区東日本大震災支援委員会が準備したプログラム等を楽しんだ。

北日本三教区(北海・奥羽・東北)は定期的に「北日本宣教会議」を開催しているが、2011年秋の会議で「保養プログラム」が提案された。三教区で準備し翌年3月、第1回が札幌で行われた。第6回からは東北教区放射能問題支援対策室「いずみ」が主催に加わり、実務の中心を担っている。滞在期間中、参加者が



上、さわやかな木陰で下、歓迎会で、心尽くしの料理が並ぶ



## 夏の特別プログラムを各教区開催

見知らぬ環境で少しでもリラックスできるような現地の担当者は準備する。「ぜひ多くの人と出会ってください。そして北海道の私たちの課題も知ってください」と願って、現地の諸教会の面々が手

作りの食事を用意し、教会の青年や子どもたちが一緒に遊び、観光地も案内する。なにより放射能の不安なく野外で草に触れ、土を踏み、水にさわると、風に吹かれる。毎回大切にしているの

が、私たちの「分かち合い」の時間。放射能の不安を抱えての日常生活の苦しさ悩み悲しみを打ち明け語り合う。家族の葛藤、周囲との軋轢、経済的困難、行政への不信、そして子どもたちへのせつない負目と不安。「こんな心の内を語るの初めて」と涙する。

プログラムの終わりに、「不安なく食べ、飲んだ」「草場で転がる子どもの姿がうれしい」「畑で泥まみれになって感激といった感想と共に、「赤の他人にどうしてこんなに親切にしてくれるのか」との感謝の言葉も。主のねぎらいを聞く瞬間だ。「保養プログラム」を通し「あなたがたには、

見えないけれど味方がいます」と伝えたい。だが、教団や海外教会からの財政支援が終了し、今後このプログラムを継続できるか不透明だ。それでも何らかの形で実施できる道を探っていききたい。(久世そらち報/北海教区東日本大震災支援委員会委員長)

## 東海教区ユースキャンプ 青年修養会に中高生を加えて初めて開催

8月10〜11日、東海教区ユースキャンプ2018(中学生・青年の集い)が国際青少年センターYMCA東山荘において開催された。

これまで東海教区では青年修養会を39回に亘って開催してきたが、中高

生の集いは行われていなかった。2017年度に教団において行われたリフォーユース500中高生大会・青年大会に教区の教会に所属する中高生や青年たちが参加したことを受けて、継続的な信仰の交わりが必要である、という話し合いを経ての開催であった。教区の青年専門委員会と教育部が責任を担った。

今回は、教団からの伝道方策交付金を参加費補助に充て、若い世代が参加しやすいように配慮することができた。中高生8名、青年5名、引率者・教職22名、合計35名の参加であった。

講師は堀地正弘牧師(静岡草深)。「であい、わたしが洗礼を受けたわけ」との主題に沿って、学生時代に聖書に触れ、社会人となり教会へ導かれて、礼拝の中でイエスキリストと出会った経緯を話された。様々な出来事の中で「主は生きておられる」との確信を与えられて洗礼へと至った、という力強い救い主の証

しであった。講演を聴いた参加者は、クリスチャンホームで育つ中学生から有職の青年まで幅広い年代層であったが、10代から20代、それ以降の歩みの中で、最後は神にしっかりと捕えられるのだ、というメッセージをそれぞれが真摯に受け止めた様子であった。

一日目の夕方や夜、二日目の朝には様々なレクリエーションを行い、親睦を深めた。ゲームや賛美、敷地内での聖書クイズラリーやグループ毎の即興劇披露など、皆が主体的にプログラムに参加し、密度の濃い時間を過ごした。講演を受けてのグループトークは年代別に分けられ、教会生活や洗礼・信仰告白の事柄など、各自の信仰について真剣に話し合う場面もあった。教職を交えた青年たちの懇談は深夜まで続いた。

二日間と限られた時間ではあったが、開会礼拝から始まり、朝拝、閉会礼拝まで、若い魂が御言

葉に多く触れる良い機会であった。日程や会場の問題、教区の全教会への理解の浸透など、課題は残されているが、各委員会で次に向けての話し合いが早速持たれようとしている。

最後に、一人の参加者の感想を紹介する。「私の主観では、メンバー同士の交わりが浅くなら



幅広い年代が一堂に集って

この夏も伝道プログラムに、教会地区、教区、またボランティアで励まされたことと思う。本号もそのわずかで伝えたいと願った。協力に感謝する。▼仕える教会でも台風の影響で出発直前まで宿舎への道路が封鎖されやきもきしたが、期間中は天候に恵まれて教会学校の子供たちとキャンプに行ってきた。その他にも幼稚園のデイキャンプ、中高生の夕涼み会、幼稚園のお楽しみ会と夏休みも特別プログラム目白押しだった。▼また今年からはじめて夏期伝道実習生を迎えた。自分もいかに多くの祈りをもって実習に迎えてもらっていたのか実感した。派遣されてきた神学生から教会も伝道の多くの刺激をもらったことは、このほかに新鮮だった。ふだん出席神学生のない教会であればなおさらのことだろう。▼そのような中で何とか数日休暇を取った。外からの連絡を極力絶とうとしたけれど難しい。休暇は海外へ、教会に事が起れば一切を協力牧師に一任という休みの取り方も聞くが、▼主は、嵐に翻弄される舟の中でも枕して休んでおられた、と云う。すべてを神に委ねるところに本当の安息があることを教えられる。



この夏も伝道プログラムに、教会地区、教区、またボランティアで励まされたことと思う。本号もそのわずかで伝えたいと願った。協力に感謝する。▼仕える教会でも台風の影響で出発直前まで宿舎への道路が封鎖されやきもきしたが、期間中は天候に恵まれて教会学校の子供たちとキャンプに行ってきた。その他にも幼稚園のデイキャンプ、中高生の夕涼み会、幼稚園のお楽しみ会と夏休みも特別プログラム目白押しだった。▼また今年からはじめて夏期伝道実習生を迎えた。自分もいかに多くの祈りをもって実習に迎えてもらっていたのか実感した。派遣されてきた神学生から教会も伝道の多くの刺激をもらったことは、このほかに新鮮だった。ふだん出席神学生のない教会であればなおさらのことだろう。▼そのような中で何とか数日休暇を取った。外からの連絡を極力絶とうとしたけれど難しい。休暇は海外へ、教会に事が起れば一切を協力牧師に一任という休みの取り方も聞くが、▼主は、嵐に翻弄される舟の中でも枕して休んでおられた、と云う。すべてを神に委ねるところに本当の安息があることを教えられる。